

1 単元名 「プレゼンテーション 資料や機器を活用して効果的に発表する」

2 単元の目標

- 相手と目的に合わせて情報を収集し、効果的に伝えることができる。 (知識及び技能)
- ICTを用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるようにシナリオを構成し、表現を工夫することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 積極的に資料や機器を用い、学習の見通しをもって自分の思いを伝えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

プレゼンテーションは、資料や機器を使いながら研究や調査結果を発表したり、企画を提案したりすることで、相手の理解や同意を得たり、行動を促したりするものである。特に ICT 機器が一般化してきた現代において、どのメディアをどのように使えば効果的な発表になるかを吟味することは、必ず求められる能力である。

本教材では、自分の身の回りのできごとや社会生活に疑問をもつことで、批判的に考える力を高めることができる。また、自分が感じた疑問を解決するために、インターネットや図書館を活用したり、インタビューやアンケート調査を行ったりすることで、場面に応じた情報収集の仕方を学ぶことができる。さらに、根拠が適切かどうかや、論理が矛盾していないかといった内容に留意しながら発表の構成を考えることで、論理的な思考力の向上を図ることができる。加えて、話し手の意図や内容を分かりやすく伝えるために、使用する資料についてはその効果や提示のタイミング、機器についてはどのメディアを選択するか、を試行錯誤することによって、説得力のある発表や報告の仕方を学ぶことができる。

このように、本教材を学習することは、情報収集や情報能力の育成を図るだけでなく、資料やメディアの選択によって効果的な伝え方を行うことができるようになるよさがある。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、本学年に至るまで、短歌の調べ学習発表会やレポートの発表会を行っており、その際は情報機器を上手く使用しながら、自分の考えを表出する活動に対して非常に活発であった。小学校段階から、他教科においても様々な場面でプレゼンテーションを行っており、小学校六年生では総合「小呂島 PR 大作戦」、中学一年生では総合「離島サミット」、中学二年生では「英語スピーチコンテスト」にて、自分の住んでいる小呂島に対する想いを発表している。

国語科の授業に対するアンケート調査では、「国語の学習は楽しい」「みんなで話し合うとき、自分から進んで話している」「文章を書くとき、それが伝わるように書く」には最も肯定的な回答を行っている。一方で「学習したことを普段の生活でもいかせそうですか」には肯定感が下がっており、社会生活への結びつきが足りないと感じている。

本単元を取り扱うことは、今まで行ってきた発表活動を見直し、情報機器の効果的な活用方法を捉えるとともに、学習を普段の生活と結びつけることができるようになるため、大変意義深い。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず、今までに行ってきた発表活動「小呂 PR 大作戦」「離島サミット」「英語スピーチコンテスト」を振り返らせることで、小呂島の人口減少に改めて着目させ、自分の故郷をなくしたくないという考えを改めて認識させる。また、学校行事「小呂フェス」でプレゼンテーションをしてもらうことを伝え、その意義を共有することで、プレゼンテーションの目的と相手を決定させる。その際、本単元の目標を達成する方法を、フィッシュボーンを用いることで具体化させる。さらに、効果的な発表が行えたかどうか評価させるために、評価項目を絞らせる。

次に、テーマを達成させるために、情報を収集させる。その際、まずはインターネットを使用し、気になった情報を Google スライドに貼り付けさせる。次に、情報を絞り込むために別の Google スライドに情報をまとめさせる。ここでは「情報カード」として引用と出典を明記させることで、著作物としての取り扱いを意識させる。さらに、当事者である島民の方々の考えを盛り込むために、アンケート調査やインタビュー調査を行わせる。

次に、集めた情報を分かりやすく説明させるために、シナリオを構成させる。ここでは、『「序論：きっかけと目的」「本論：収集したデータ」「結論：伝えたいこと』』の構成にさせる。また、相手に伝わりやすいスライドを作成させるために、情報を整理・加工させたり、評価項目を踏まえさせながら資料を作成させたりする。さらに、リハーサルを行わせ、推敲を重ねさせることで、より効果的な発表を行わせる。

次に、学校行事「小呂フェス」にて、当事者である島民の方々に対しての発表を行わせ、それが効果的な発表であったかどうかを捉えさせるために、アンケート調査を行う。

そして、「小呂フェス」にて行った発表動画を振り返らせることで、設定していた評価項目をどの程度達成できたか、客観的に自己評価を行う。また、「小呂フェス」での島民の評価を集計し、自己評価と比較させることで、自分の発表がどの程度相手に効果的であったかを捉えさせる。その際、発表の構成、話の構成、話し方の工夫、資料や機器の活用の仕方、の四つの評価項目に対してのまとめを行わせる。さらに、以上の活動を踏まえて、効果的な発表について自分の言葉で落とし込ませるために、本単元のまとめを行わせる。

これらの活動を通して、自分の地域に対しての思いを確認させるとともに、自分の活動が地域を動かすことができるということを実感してもらい、これからの児童生徒会活動や委員会活動といった学校活動や、島内における SDGs 活動につなげていけるようにさせる。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性……多様な情報を取り入れることで自分の生活を客観視し、それに基づく発表を行うことで、情報のつながりに気づくこと。

公平性……地域や世代を渡る考えを発表することで、持続可能な社会を作り出そうとしていること。

・ 本学習を通して育てたいE S Dの資質・能力

クリティカルシンキング（批判的に考える力）

自分が良いと考えた発表が効果的かどうか，他者評価を通じて評価し，より良いものにしていくこと。

長期的思考力

他の離島のデータを取り入れることで，自分の地域の未来を見通すこと。

コミュニケーション力

他人の意見を元に，自分の意見を構成し，発表すること。

・ 本学習で変容を促すE S Dの価値観

世代間の公正

様々な世代の力によって支えられてきた地域を，これから自分たちも支えていきたいと考えること。

自然環境・生態系の保全を重視する

美しい地域の自然や風景を守っていくためには，自分たちが変わっていく必要もあると考えること。

・ 達成が期待されるSDG s

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 4 海の豊かさを守ろう

1 7 パートナリーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

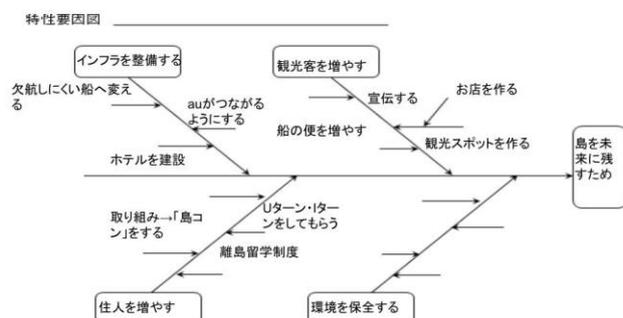
(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 情報を収集する際，意見と根拠，具体と抽象など，情報と情報の関係を結び付けている。</p> <p>②相手と目的に応じて，効果的な発表を行っている。</p>	<p>①資料や機器を適切に用いることで，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。</p> <p>② 自分の立場や考えが明確になるように，適切な根拠を用いたり，論理の展開に留意したりすることで，話の構成を工夫している。</p>	<p>① 積極的に資料や機器を用いようとしている。</p> <p>② 自分が住んでいる島に対する情報や，島の今後に対する情報を意欲的に集めようとしている。</p> <p>③島民の方々に熱意が伝わる発表を行おうとしている。</p> <p>④今後の学校活動においても学んだことを生かそうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全6時間）

学習活動	○ 学習への支援	○ 評価・備考
<p>1. プレゼンテーションの相手と目的を決め、テーマを達成する方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで小呂島の課題に向き合ってきた。 ・島民の方々に自分の想いを伝えたい。 ・どうすれば「小呂島を残し続けて欲しい」という自分の想いを伝えることができるだろう。 	<p>○ プレゼンテーションの相手と目的を明確にさせ、テーマを解決するためにフィッシュボーンを構築させる。</p> <p>○ 評価の観点を絞りこませ、本單元における目標を明確にさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A: 発表について B: 話の構成について C: 話し方について D: 資料の作成と機器の操作・活用について</p> </div>	<p>ア② (知・技)</p>
<p>2・3 情報を収集し、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の離島では様々な取組みを行っている。 ・島民の方々に、アンケート調査やインタビュー調査を行ってみたい。 ・集めた情報を島民の方々に知ってもらいたい。 ・小呂島を残し続けるには少しずつ行動することが必要だ。 	<p>○ テーマを達成するために、インターネットや本での調査、必要に応じてアンケートやインタビューを実施させる。</p> <p>○ 収集した情報をまとめるために、それぞれの情報を情報カードに整理させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔情報カード〕 ①見出し ②日時 ③引用 ④出典</p> </div>	<p>ア① (知・技) ウ①② (主体的)</p>
<p>3・4 内容が効果的に伝わるプレゼンテーションを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島民の方々に特に響く情報を選びたい。 ・作ったものが分かりやすいように、情報は絞らないと。 ・視覚的な情報を盛り込んだ方が良い。 ・本当に伝えたいことを最初と最後にもってきたい。 ・島民の方々にアンケートに答えてもらえると、島民の考えも盛り込んだ発表ができる。 	<p>○ 相手に効果的に伝わる発表にするために、集めた情報を整理、加工させたり、スライドやフリップを作成させたり、構成を練らせたりする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・文字や写真、図を見やすくする ・情報を盛り込み過ぎない ・聞き手の理解を高めるための図や写真の挿入 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>序論：きっかけと目的 本論：資料 結論：伝えたいこと</p> </div> <p>○ 自分の発表を批判的に見て改善するために、動画を撮影して推敲させる。</p> <p>○ 他者評価を得るために、1校時で絞った評価項目を元にアンケートを作成させる。</p>	<p>イ①② (思判表)</p>

<p>5 学校行事「小呂フェス」にて、プレゼンテーションを行う。</p>		<p>ウ③ (主体的)</p>
<p>6 プレゼンテーションの評価を基に各評価項目に対してまとめ、効果的な発表について総括を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の行動が島民の方々を動かすことができ良かった。 自分の評価と島民の方々の評価にズレがあったから、今後はより効果的な発表を行おう。 これからの自分の学校での活動が、小呂島を残し続けていく活動になればいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料や機器が活用出来ていたかを客観的に理解するために、発表動画を見ながら自己評価を行わせる。 島民の方々にとってアンケートを集計する。 自分の発表が設定した「相手」に効果的であったかどうかを捉えるために、自己評価と他者評価を比べさせ、各評価項目に対するまとめを行わせる。 今後の活動につなげる意識をもつために、まとめの中で児童生徒会活動や委員会活動、島内 SDGs 活動についても言及させる。 	<p>ア② (知・技) イ① (思判表) ウ④ (主体的)</p>

資料 1. 実際に生徒が作成したフィッシュボーン



資料 2. 実際に生徒が作成した情報カード

情報カード

見出し: 島づくりのトリセツ

日時: 10月10日

引用:

(2) 人口減少により起こり得る課題
① 生活サービスの低下

○ 島の人口が減少すると、様々な弊害が起こります。
○ 商店の減少、医療機関の減少、小中学校の休校・統廃合、定期航路の減少、行政機関(支所など)の廃止など、深刻になると日常の暮らしに支障をきたす場合があります。
○ 国土交通省の調査では、人口の推移と小中学校の存続・廃校の有無の関係について、小学校がないと、人口減少傾向が大きくなることがわかっています。

【国勢の推移】
島根県人口の推移
1995年(平成7年)調査: 192万7千100人
2020年(令和2年)調査: 182万7千100人

出典: <https://www.mlit.go.jp/common/001229951.pdf>

○ 資料 3. 実際に生徒が作成した評価シート（島民にアンケートとして配布）

	◎	○	△
発表について	内容に魅力を感じた。	内容の魅力は理解できなかった。	内容に魅力を感じなかった。
構成について	話の展開が興味を惹きつけるようなものだった。	わかりやすい構成だった。	伝わりづらい構成になっており、改善の余地を感じた
話し方について	表情や声のトーンから、熱意を感じられる話し方だった。	表情や声のトーンが良かった。	熱意が感じられなかった。
スライドの見やすさについて	図や写真を上手に取り入れており、発表の内容の理解を高めるものだった。	図や写真によって理解は高まった。	図や写真が分かりにくかった。